

平成26年3月期
決算説明資料

平成26年5月14日

平成26年3月期
決算概要

平成26年3月期決算の総括

海外経済の成長鈍化や円安による資材費の高騰など、継続して企業努力を必要とする状況ではありますが、企業の設備投資意欲の向上により、吸収冷温水機やボイラの需要が増加傾向を示すなど、緩やかに持ち直しの動きが見られ、受注高は、ほぼ前期並みの164億24百万円、売上高は、前期比7億79百万円増加の167億73百万円となりました。

利益面では、空調・ボイラともに売上が増加したことと、経費の削減に努めたことにより、営業利益は、前期比2億50百万円増加の4億8百万円、経常利益は、為替差益と環境対策費の戻入により前期比2億83百万円増加の4億71百万円となりました。当期純利益は、当社の関係会社である同方川崎節能設備有限公司（中国）に対して過年度に計上した債権に係る貸倒引当金が、同社の業績が引き続き好調であることから、特別利益として1億66百万円戻入されたことにより、前期比2億91百万円増加の4億4百万円となりました。

平成26年3月期損益計算書

金額単位：百万円（百万円未満切り捨て）

	前期 25/3月期	当期 26/3月期	前期比	備考
売上高	15,994	16,773	104.9%	
売上総利益	3,959	4,260	107.6%	
販売費及び一般管理費	3,801	3,851	101.3%	
営業利益	158	408	258.2%	
営業外収益	90	73	81.1%	
営業外費用	60	10	16.7%	
経常利益	188	471	250.5%	
特別利益	29	166	572.4%	関係会社貸倒引当金戻入による
税引前当期純利益	217	637	293.5%	
法人税及び事業税	43	225	523.3%	
法人税等調整額	61	8	13.1%	
当期純利益	112	404	360.7%	

平成26年3月期貸借対照表 =資産の部=

金額単位：百万円（百万円未満切り捨て）

	前期 25/3月期	当期 26/3月期	前期比	備考
流動資産	8,405	8,214	97.7%	
現金及び預金	53	5	9.4%	
受取手形・電子記録債権・売掛金	6,328	6,640	104.9%	
棚卸資産	1,475	1,311	88.8%	
繰延税金資産	318	307	96.5%	
その他	229	257	112.2%	
固定資産	4,199	4,474	106.5%	
有形固定資産	1,878	2,090	111.2%	
無形固定資産	310	345	111.2%	
繰延税金資産	850	935	110.0%	
投資その他資産	1,161	1,104	95.0%	
資産合計	12,604	12,688	100.6%	

平成26年3月期貸借対照表 =負債・純資産の部=

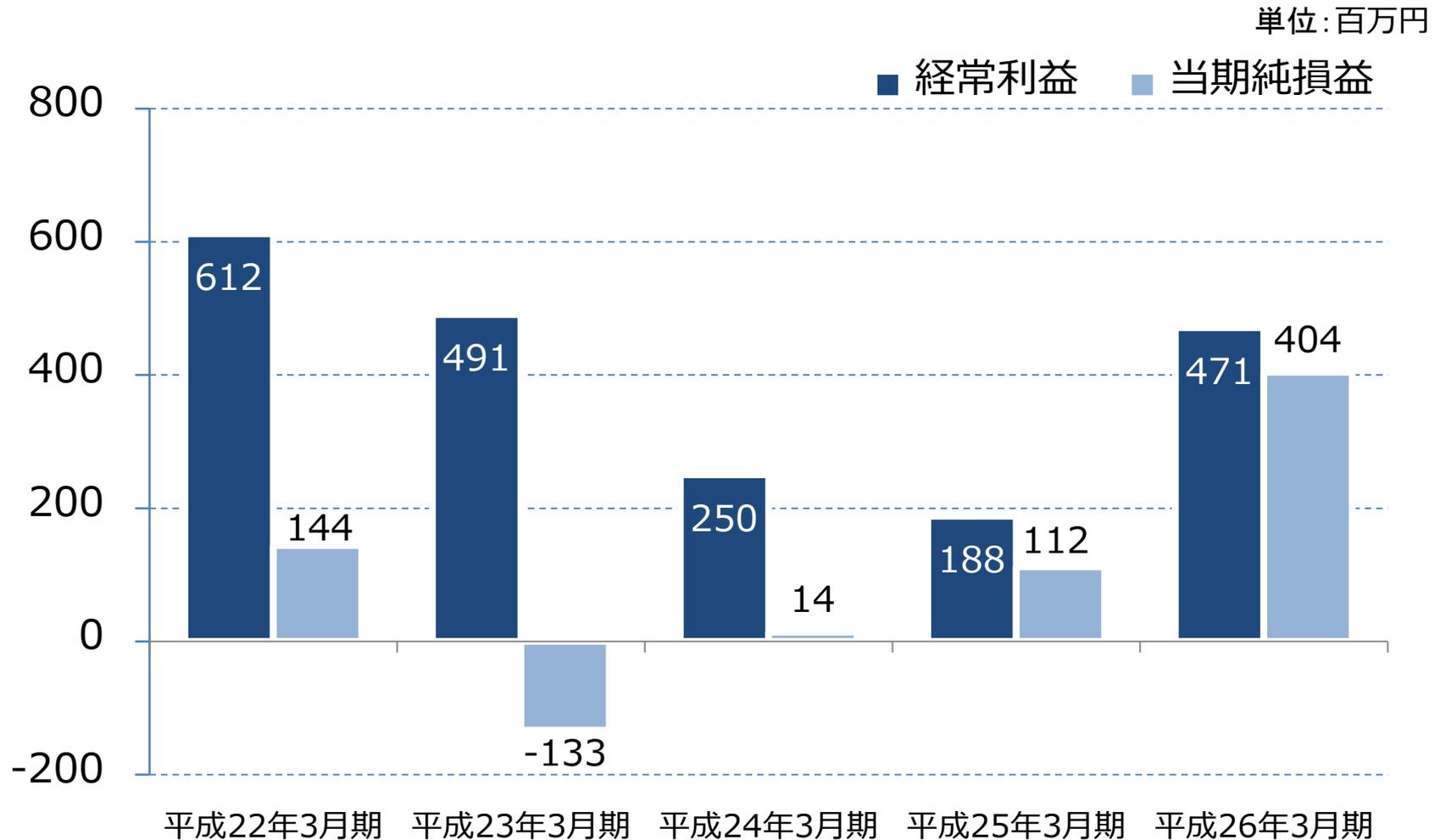
金額単位：百万円（百万円未満切り捨て）

	前期 25/3月期	当期 26/3月期	前期比	備考
流動負債	6,231	5,918	95.0%	
支払手形・電子記録債務・買掛金	4,032	3,778	93.7%	
短期借入金	416	348	83.7%	
設備未払金・設備支払手形	379	252	66.5%	
その他流動負債	1,404	1,540	109.7%	
固定負債	2,363	2,545	107.7%	
退職給付引当金	2,225	2,426	109.0%	
その他の固定負債	138	119	86.2%	
負債合計	8,595	8,463	98.5%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,329	1,536	115.6%	
(内当期純利益)	112	404	360.7%	
自己株式	△18	△19	105.6%	
株式等評価差額	9	19	211.1%	
純資産合計	4,009	4,225	105.4%	
負債・純資産合計	12,604	12,688	100.7%	

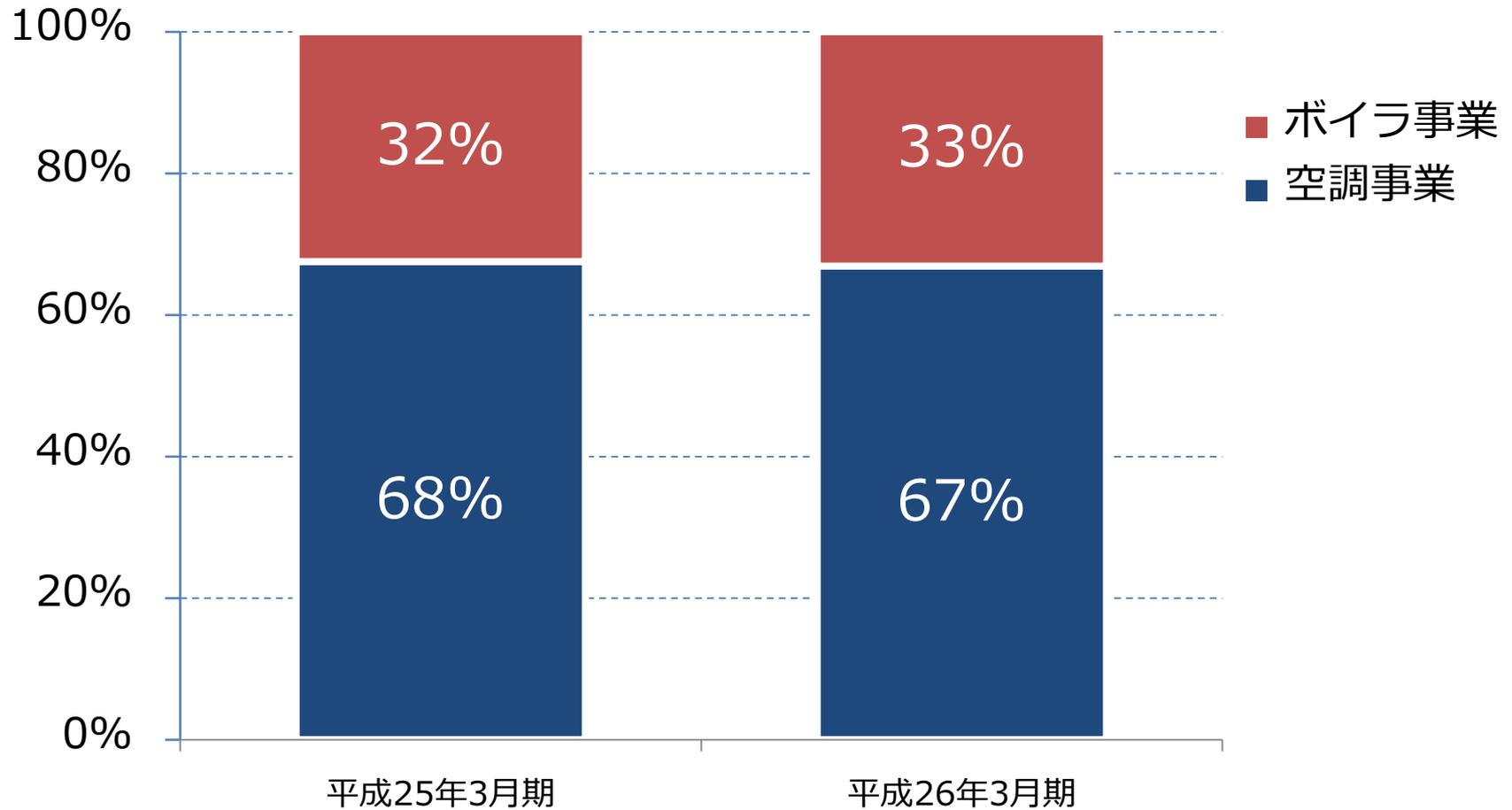
売上高の推移



利益の推移



売上高構成比の比較



平成26年3月期決算の総括

空調事業

- ①機器本体の売上高は、売上台数の増加と工事付案件の増加により、前期を大幅に上回りました。
- ②改修改造工事・メンテナンスの売上高は、改修改造工事の増加により、前期を上回りました。

ボイラ事業

- ①機器本体の売上高は、大型の水
管ボイラ、排熱ボイラが増加した
ことにより前期を大幅に上回
りました。
- ②改修改造工事・メンテナンスの
売上高は、改修改造工事の増加
により、前期を上回りました。

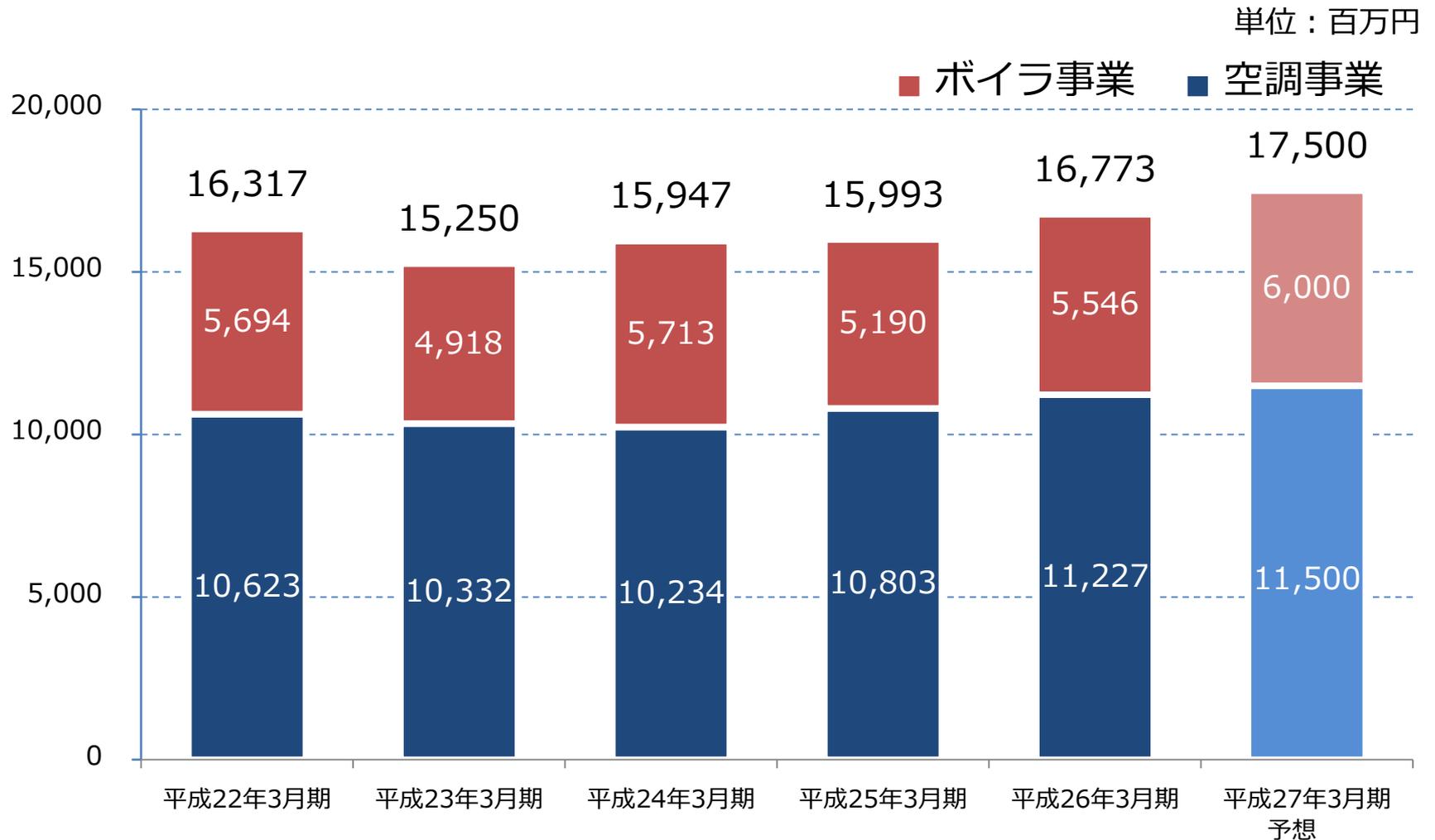
平成27年3月期
業績予想

平成27年3月期損益計算書

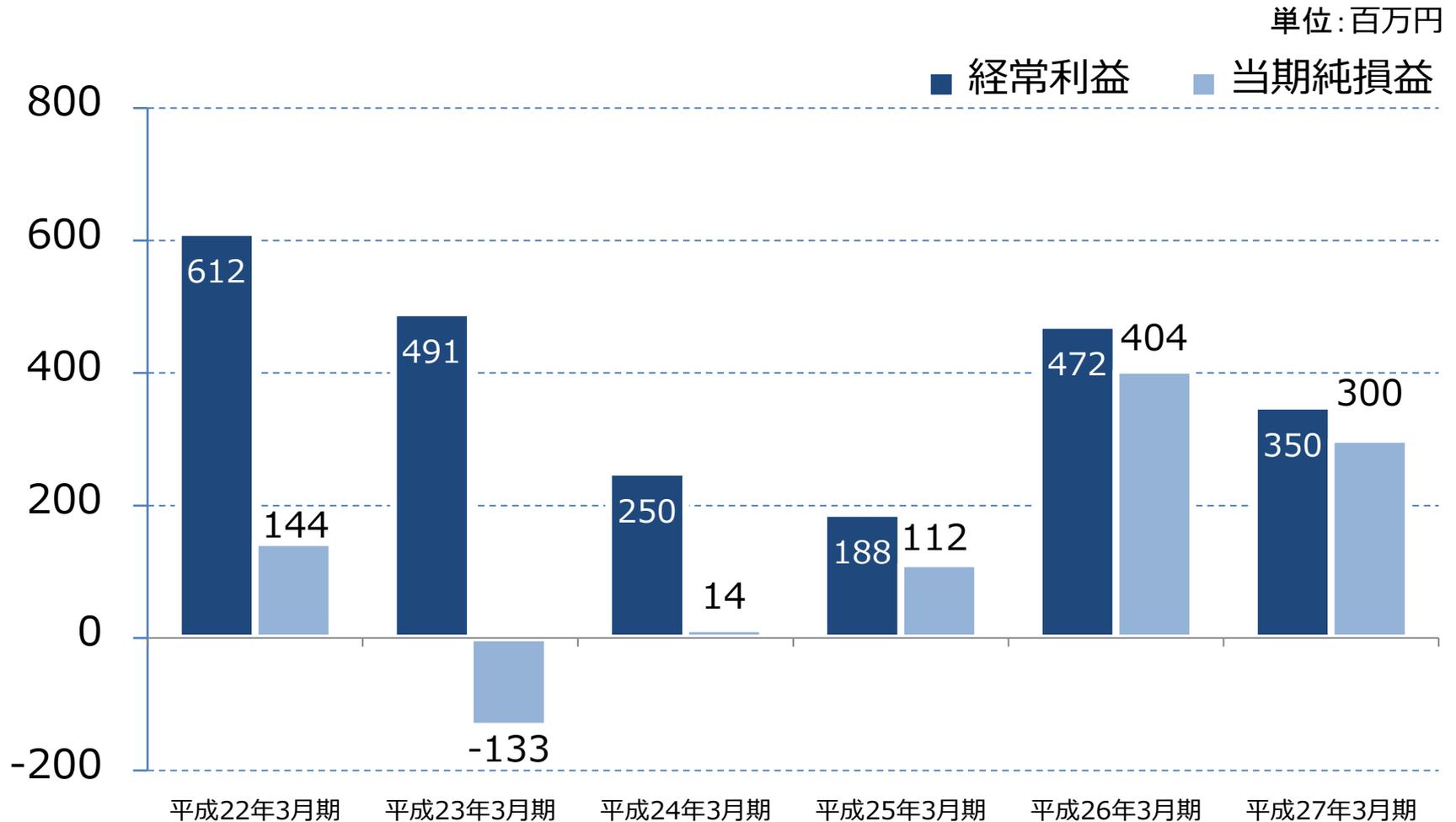
金額単位：百万円（百万円未満切り捨て）

	当期 26/3月期	来期(予想) 27/3月期	前期比	備考
売上高	16,773	17,500	104%	
空調事業	11,227	11,500	102%	
ボイラ事業	5,546	6,000	108%	
営業利益	408	370	88%	
経常利益	471	350	74%	
当期純利益	404	300	74%	

売上高の推移（予想）



利益の推移（予想）



事業区分別計画

空調事業

- ①2013年4月から発売を開始した新型吸収冷温水機「エフィシオ」を始め、世界最高効率を誇る三重効用吸収冷温水機や、排熱を利用できるジェネリンクなどの拡販に努めます。
- ②遠隔監視システム「テレメンテ」の改良および当社独自の省エネシステム「イーコップセイバー」の営業などにより、省エネルギー提案を積極的に行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの受注拡大に努めます。

ボイラ事業

- ①大型貫流ボイラ「イフリート」を事業の柱とし、空調営業・およびエネルギーソリューション部との連携を強化し、お客様の省エネニーズに対応する製品・サービスを提案することにより、拡販に努めます。
- ②改修改造工事・メンテナンスは、定期検査、燃料転換や省エネ改造などの改修工事を中心とした工事の受注拡大ならびに年間保守契約の獲得向上に努めます。

参考

当社の経営方針

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

業界の動向

当社の関連する空調業界では、今後は電力使用の制約から電力ピークカット効果の高いガス空調が見直されていくものと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化が無いと思われます。

空調・ボイラ業界共に、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび未利用エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。